

Please join us !

OSAKA
大阪おおさかの街

— for the city of Osaka —

21世紀のインフルエンザ

大阪市立環境科学研究所

厚生労働省は、3月12日、全国約5千医療機関を対象としたインフルエンザの定点調査で、3月1日から7日の新規患者数が1医療機関あたり0.8人となったことを発表しました。昨年8月中旬から流行入りの指標となる1人を超える状態が継続していましたが、30週目で1を切ったことにより、しかし、再び流行が起こる可能性は否定できませんので、今後も引き続き感染防止等の取り組みは続けるよう呼びかけます。これまでの新型インフルエンザの累積患者数は2千万人を超え、大きな話題となったこの新型インフルエンザについて、大阪市立中央図書館で行われた市立環境科学研究所の後藤薫氏の講演に参加してきました。

新型インフルエンザ発生の経過

2009年4月、アメリカの疾病予防管理センター（CDC）は、アメリカやメキシコで、これまで人の間で流行をくり返してきたA香港やAソ連などのインフルエンザウイルスとは異なるブタ由来の新しいインフルエンザウイルスが人に感染している事例があることを報告しました。4月28日、世界保健機関（WHO）は、このブタ由来の新型インフルエンザウイルスの流行を、国際的な健康危機として警戒レベル（パンデミックフェーズ）をそれまでのレベル（フェーズ3）から1段階引き上げ（フェーズ4）、さらに30日にもう1段階（フェーズ5）上げるとを宣言しました。日本ではWHOの発表を受け、すでに

準備されていた新型インフルエンザ対策行動計画に基づいて、成田や関西空港などの水際に重点をおいた対策の強化が図られ、5月初旬、流行地域である北米大陸から帰国した人の中に患者が見つかりました。しかし、5月中旬には神戸で、続いて大阪で海外渡航歴のない高校生に感染例が次々と見つかり、このブタ由来新型インフルエンザの国内での発生が初めて確認されました。この初期の患者発生に対して、感染を確認した府県内の学校を休校にする等の対策がとられ、一旦は沈静化しましたが、6月末から再び患者数は増え始め、全国での患者発生は11月下旬に最大となりました。その後は、新



大正9年の流感予防キャンペーン
「マスク」デー

たな患者発生数はゆるやかに減少し、現在、流行はほぼ治まりつつあると考えられています。

インフルエンザとは

毎年冬期に流行するインフルエンザに罹ると、のどの痛み、鼻汁、咳等の普通の風邪の症状に加えて、38℃以上の高熱や頭痛、関節痛、筋肉痛等全身の症状が突然現れ、小児では稀に急性脳炎となったり、高齢者や免疫力の低下している人は肺炎を併発し重症化することがあり、場合によっては死亡することもあります。インフルエンザはかなり古い時期から流行していたと考えられますが、1918年から15年後の1933年に、インフルエンザの原因がウイルスであることが解明されました。しかし、インフルエンザウイルスは変化し続けるウイルスのため、インフルエンザ撲滅の手だては追いついていません。

ところで、細菌の多くは栄養さえあれば単独で増殖できますが、ウイルスは動物等の宿主の体を借り(細胞に感染)なければ増殖できません。インフルエンザウイルスにはA型、B型、C型の3種類があります。A型とB型は、毎年冬になると流行をくり返すインフルエンザの原因ウイルスで、A型は大流行を引き起こしたり新型インフルエンザに変異するウイルスです。A型は様々な亜型(組み合わせ)があり、人やブタ、鳥類等の脊椎動物に感染します。B型とC型は人だけに感染します。

感染の仕組みと対策

インフルエンザの感染の仕組みをわかりやすく説明しますと、インフルエンザウイルス表面(エンベロープ)にある2種のタンパクのうち、HA(ヘムアグルチニン)が宿主の細胞に潜り込むカギの役目、NA(ノイラミニダーゼ)が宿主細胞内で新たに増殖したウイルスを細胞から飛び出す時のハサミの働きをします。インフルエンザの治療に使われるタミフルは、NAのハサミの働きを阻害する薬です。しかし、インフルエンザウイルスは、タミフルに耐性を持つウイルスに変化することがあり、注意が必要です。タミフル耐性の場合は、リレンザ等の他の薬を使います。また、新薬の開発も進められています。人はウイルスに感染すると体内でウイルスに対する抗体(免疫ができる)をつくり、病気を治すとともに2回目以降の感染を防御します。しかし、インフルエンザウイルスは、抗原となるウイルス表面のHAとNAが少しずつ変化し続けており、過去の感染でつくられた抗体と反応しにくくなるため、大きな流行を毎年起こすと考えられています。このためインフルエンザ対策には、ワクチンを毎年接種するのが一般的です。一方、新型インフルエンザは異なる亜型のウイルスが同時に感染した場合等に、人に感染する新しい組み合わせの亜型のウイルスが再構築されること等で出現します。過去の感染で獲得した抗体はほとんど働かないため、世界的な大流行を引き起こします。新型インフルエンザ対策の難しいところは、流行が起こった後にワクチンを開発しなければならぬことです。新型インフルエンザ



内務省衛生局の流感予防ポスター
(大正9年2月)

対策の基本は、過去の予防策と同じく、感染しないための日常の衛生と健康への注意が最大の防衛策のようです。もし、インフルエンザに感染してしまったら、重症化するリスクの高い方や症状が重くなった方は、すぐに医療機関を受診することが重要です。

インフルエンザに関する一般的な問い合わせ

大阪市健康福祉局大阪市保健所(感染症対策)

大阪市阿倍野区旭町1の2の7の1000号(あべのメディックス11階)

06・6647・0656

http://www.city.osaka.lg.jp/shimin_top/category/716-1-16-0-0.html

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞